

過去5年振り返り今後5年の展望を聞く

ブツリユウアイでは、「創刊5周年特集」として、トラック運送に関わる各分野のエキスパートに過去5年間を振り返っていただき、今後5年間の展望を聞いた。第1回目はやはりトラック運送分野。三重県伊賀市に本社を置く中田商事の中田純一社長に話を聞く。同社は2010年10月に給与体系を抜本的に改定した。それまでの売上対比いわゆる歩合給制を撤廃し、代わりにデジタルタコグラフと人事考課を基準とした時給制に移行した。当時は社内からの不満もあったというが、試行錯誤を重ね、現在では同社の武器ともなっている。



追いつき追い越すことで境界が広がると強調する

■時給制で人材確保
—過去5年間を振り返っていかがでしたか
中田氏▽時給制の精度を上げてきた5年間だった。地道にPDCAを回してきた。そのおかげで、現在はしっかりと制度になりつつあると思っています。

—そもそも時給制に移行したきっかけを教えてください
中田氏▽当時はアメリカで起きたサブプライムローン問題やリーマンショックによる世界同時不況の時代だった。売上が順調に確保できなくなった場合、歩合度ではドライバーの給与が十分に確保できず生活が脅かされると感じた点の一つ。そしてもう一つは、中小企業の猶予期間とされていた改正労働基準法にも対応させる必要があった。

—時給制に移行したことで変化はありましたか
中田氏▽まず、女性や他業種から転職してくる中高年者が増えた。やっただけもらえる給与から安定的に支給される

給与へと移行させたことで採用の閥口が広がった。たとえば、「土日だけ仕事をした」という女性や「年金をもらっているので一日数時間の勤務でいい」というシルバーもいる。こうした需要は時間給だからこそ採り入れることができた。おかげで当社には10代〜60代までのいわゆる3世代が働いている。

■年々ブラッシュアップ

—この5年間でどのような点を修正しましたか
中田氏▽これまでは仕事の出来る人ばかりを追いかけて給与体系の仕組みをつくってきた。どこかで中間層つまり普通の仕事ぶりの人たちを歪んだ目で見てきたかもしれない。しかし、それは結果的に短時間で仕事ができる「職人感覚の人」を求めてきたことでもあり、組織のボトムアップという点でよろしくないという点に気づいた。そこで、中間層の賃金がアップするよう制度を見直していった。そして最新の賃金制度では、当

社のドライバーは同業他社はもちろん他業種と比べても遜色なくらいの給与を持って帰っていると自負している。

—それが人材の確保にもつながっているということですね。人材確保の面では、ことし4月に企業主導型保育施設「どんぐり保育園」の運営を開始しましたね

中田氏▽そうですね。もともと、あるタクシースタッフが企業主導型保育園をスタートさせ女性タクシードライバーを募集したところ応募が殺到し、女性比率が4割近くまでアップしたという成果を聞いたことがきっかけです。幼い子を抱える母親としては、子供を保育園に入れることができ、働くこともできる。企業にとっても労働力の確保につながる。自社の福利厚生を充実させるとともに、子育て等で働きたくても働けない女性の潜在労働力を掘り起こしたいと思っています。

■今の仕組みのままでもいいの？

—一方、業界を見渡してみてもこの5年間はいいかげんかですか
中田氏▽やはり時代の変わり目、業界の変わり目という感覚を持っています。まず、失われた10年そしてそれ

まで以上に経済環境が悪くなったリーマンショックを境に、トラック運送事業経営者が勉強するように

なったように思う。ただ、追いつき追い越せの「追い越せ」の部分がなく、追いつくことで安心している経営者が多い。追い越せるところで初めて視野がまったく違ってくるのだと思う。良くも悪くも現在のトラック運送業界は荷主への依存体質が多い。これは構造的にやむを得ない部分もあるが、「いつまでも荷主の（利益の）おこぼれをもらっている仕組みはどうなの？」と感じる。

■今後5年で事業承継にも着手

—荷主に提案できる業界となるべきだと
中田氏▽そうですね。荷主が上とか運送業界が下とかではなく、対等な関係として我々はあなたがたの業務効率化のためにこんな提案ができる、売上アップのためにはこうすればいいのではないかと、ということを示していく。そうすることで荷主からも認められる存在となれるし、ひいては業界の地位も上がっていくと思う。

—中田商事では地域密着を掲げてサッカーとの連携も強めています
中田氏▽現在、NPO法人でサッカークラブチームを運営しており、近くサッカースタジアムの建設も視野に入れています。トラック運送会社が保育園やサッカークラブを運営していると知ると皆が驚く。固定観

念としてある業界のイメージを少しずつ変えられたらいいと思っていますね。

■今後5年間はどのような展望をお持ちですか

中田氏▽トラック業界でいえば、やはり人材確保に明け暮れる5年間となるだろう。現在もそうだが、同業者だけでなく異業種の間でも人材の取り合いとなることは間違いない。また、法令遵守の精神がさらに強くなっていくと思っている。コンプライアンスができていくことが前提での勝負となるので、一層淘汰が進んでいくのではないかと。これは地位向上を掲げる業界にとってはいいことだ。中田商事でいえば、5年後は私が60歳となる年なので、引退することをイメージし後継者づくりをしていかなければならないと思っている。

お客様の環境に合わせて使える！
電卓感覚の運行管理システム！！

運びま専科

大容量 SQL版
パソコン2台 Lite版
パソコン1台 mini版
3台 コンパクト版

詳細はWEB 運びま専科 検索
お問合せは 0545-31-1517

祝・創刊5周年

一般社団法人愛知県トラック協会
会長 小幡 銀伸

株式会社エヌアールティー
代表取締役 成田 敏明

一般社団法人石川県トラック協会
会長 久安 常信

株式会社サンワNETS
代表取締役 水谷 欣志

一般社団法人静岡県トラック協会
会長 大須賀 正孝

株式会社ナイスキャリーサービス
代表取締役 猪上 章

株式会社中田商事
代表取締役 中田 純一

株式会社プレスオフィス
代表取締役 牧野 克也

栄光陸運株式会社
代表取締役 鈴木 栄子

中部交通共済協同組合
理事長 鈴木 基浩

株式会社ドラゴン
代表取締役 土川 護

フジセーレック株式会社
代表取締役 加藤 真一

一般社団法人三重県トラック協会
会長 小林 俊一

三重県交通共済協同組合
理事長 山口 信也

名備運輸株式会社
代表取締役 丸川 靖彦

陸運防災防止協会 静岡県支部
支部長 大須賀 正孝